

I. 2020年度地域連携活動経費による活動報告

1. 松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画

松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化

－ 88 (やまんば)プロジェクト2020－

総合経営学部総合経営学科 清水 聡子

(1)はじめに

松本大学と「道の駅」中条(なかじょう)及び長野国道事務所は、長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始した。連携企画の実施にあたり、「道の駅」中条の運営を担う指定管理者であるアクティオ株式会社と本学は事業連携・推進に関する協定を締結し、2015年7月7日に記者会見を行った。松本大学総合経営学部では国土交通省の推進する「道の駅」を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めてきた。

1995(平成7)年に登録された「道の駅」中条は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。「道の駅」中条のある旧中条村は2010(平成22)年1月に長野市、信州新町、中条村の1市1町1村で合併し、長野市中条となった。旧中条村は山姥伝説の里として知られている。

松本大学総合経営学部総合経営学科清水ゼミの学生は山姥が「子育ての神様」として住民から大変慕われていることに着目し、山姥伝説を中条地域の大切なお宝として捉え、「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条を応援します!として、「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げた。これは山姥(やまんば)の“や”と“ば”を数字の8で表現したら面白い!と学生の柔らかい発想から生み出された。長野市中条地域の活性化に向けて、①「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条のお宝探し、②地域特産物を活かした商品開発・キャラクター開発・イベント企画の実施、③長野市中条地域最大イベント「むしくらまつり」の連携・協力を実施してきた。

6年目となった2020年度も協定に基づき、「道の駅」中条を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的として活動を続けた。2019年度は令和元年台風第19号、2020年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、長野市中条地域最大のイベントである「むしくらまつり」が中止となった。国土交通省による「道の駅」学生コンテストおよび

『重点「道の駅」選定授与式・地域の取組発表会』も中止となった。

大変厳しい状況であったが、「道の駅」中条の皆様のご協力のもと、学生は「できることを、できるかたちで、できる範囲で」活動を続け、成果をあげることができた。「道の駅」中条に隣接する長野市ジビエ加工センターのジビエを使った商品開発「ジビエ豆乳スープ」、2018年に学生が考案した中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」のイラスト化とポスターおよびステッカーの制作、三代目「ナカジョニー」決定、第4回「スタンプラリー」を非接触型で企画・運営、第2回「川柳コンテスト」を企画・実施することができた。4年生は88プロジェクトの活動を元に卒業論文も完成させ、学生の溢れるアイデアが形になった。また2020年春には国土交通省より「奨励賞」を授与された。本稿では、2020年度の「88プロジェクト」の活動を報告する。

(2)2020年度キックオフ・ミーティング

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、Microsoft Teamsでのオンライン授業が5月7日(木)よりスタートした。卒業研究を受講する清水ゼミ4年生は2019年度の活動実績を3年生に伝え、3・4年生でコロナ禍でも可能な活動について議論を続けてきた。

総合経営学科3年生の専門研究、清水ゼミの学生と対面できたのは「道の駅」中条での2020年7月4日(土)、キックオフ・ミーティングであった。下内光雄「道の駅」中条施設長、小林彩子副施設長、高橋さつき副施設長に向けて学生はプレゼンテーションを行った。

4年生、太田このみさんによる「ジビエ豆乳スープ」の提案、3年生、高野拓己さんと中沢夏輝さんによる食品開発アイデア、赤羽陽南乃さんと百瀬愛さんによる「ナカジョニー」のイラスト化の提案、石坂諒さんと宮崎凜さんによるモザイクアートのアイデア、大谷航平さん、日下部拓海さん、寺澤郁哉さん

による第4回「スタンプラリー」の実施案、飯島夏菜恵さんによるSNSの提案が行われた。コロナ禍で外遊びしにくい子どもたちに向けて、スタンプラリーに運動要素を組み込むなど「できることを、できるかたちで、できる範囲で」アイデアを出し続けた。また4年生は第2回「川柳コンテスト」の実施案と卒業論文の経過報告も行った。3年生、赤羽陽南乃さんにキックオフ・ミーティングの感想をまとめてもらった。

総合経営学科 3年 赤羽陽南乃

今年度で6年目となった88プロジェクトのキックオフ・ミーティングを、昨年より1か月ほど遅れて行うことができました。今回のアウトキャンパスが、新型コロナウイルス感染症の影響で今までずっと遠隔授業で画面越しだったゼミメンバーとの初顔合わせとなりました。

3年生は中条のイメージキャラクターである「ナカジョニー」のイラスト化と活用、SNSを活用しての情報発信、中条の写真で作るモザイクアートなどの新しい企画案と第4回「スタンプラリー」の提案、4年生はジビエを使った食品開発、第2回「川柳コンテスト」について発表し、卒業論文の経過報告をしました。

今回のミーティングでは私たちの企画案に対して様々な意見をいただき、これからやっていくべきことがより鮮明になりました。新型コロナウイルス感染症の影響で今年の長野市中条地域最大のイベント「むしくらまつり」は中止が決まってしまいましたが、「道の駅」中条の皆様の協力のもと、私たちのアイデアで「道の駅」中条や88プロジェクトをより盛



「ナカジョニー」のイラスト化について発表する
清水ゼミ3年生、赤羽陽南乃さん

り上げていくべく、まだまだ不慣れな私たちですが「できることを、できる形で、できる範囲で」頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願い致します。



国土交通省が主催する道の駅学生コンテストにおいて「奨励賞」を受賞



新型コロナウイルス感染症に対応した「道の駅」中条の施設内の様子(2020年7月4日)



いのししカレーといのしし笹おやき

(3)「ジビエ豆乳スープ」の考案とふるまい

清水ゼミ4年生、太田このみさんが「道の駅」中条に隣接する長野市ジビエ加工センターのジビエを

使った「ジビエ豆乳スープ」を考案した。2020年10月18日(日)、SBC信越放送主催「ろくちゃんの森」イベントの際、「道の駅」中条にて「ジビエ豆乳スープ」がふるまわれた。新型コロナウイルス感染症対応における「松本大学活動制限指針」に基づき学生は考案のみ担当し、「道の駅」中条の皆様によって、イベント参加者に提供された。4年生、太田このみさんの卒業論文「持続可能な「道の駅」中条の展望」より「ジビエ豆乳スープ」の商品開発の経緯と感想をまとめる。

 総合経営学科4年 太田このみ

2020年度に私が取り組んだ活動は食品開発「ジビエ豆乳スープ」の考案である。この「ジビエ豆乳スープ」を考案した理由は2つある。1つ目は2019年度に私が考案した「笹豆乳もち」は令和元年台風第19号の影響で「むしくらまつり」が中止となり、販売できなかった。不完全燃焼のままプロジェクトを終わらせたくないという思いから。2つ目は、「道の駅」中条ではジビエに力を入れていることを知っていたため、何か協力できないかと思ったからである。私自身、2019年度の取り組みで最も力を入れた活動が商品開発だったため、それが実績として残らないのが非常に心残りであった。そこで「道の駅」中条がジビエを使用した商品開発を進めていることを知り、ジビエを使った商品開発を提案すれば2020年こそ活動実績として残るのではないかと思い、「ジビエ豆乳スープ」を提案した。

レシピを考案する際、2020年度も新型コロナウイルス感染症の影響により「むしくらまつり」が中止となってしまったため、この「ジビエ豆乳スープ」がいつどこでどんな状態で「道の駅」中条で販売されるのかわからなかった。そのため、夏季に販売される場合と冬季に販売される場合の2つを想定し、レシピを作成した。

基本の材料は変えず、最後の工程で加える水溶性片栗粉の有無によって、夏季と冬季の2種類に分けることができた。水溶性片栗粉の有無による違いとは、入れない場合はサラサラしたスープで、入れた場合はトロトロとしたシチューに近いスープになるため、入れないものよりも冷めにくいという違いがある。そのため、水溶性片栗粉を入れたものは、冬季に販売し、夏季は水溶性片栗粉を入れずに販売することで、季節や気温に合わせた商品として販売することができるのではないかと思った。さらに水溶

き片栗粉以外の材料は変えないため、コストや手間のかからない商品である。このコストや手間のかからないようにというのは「笹豆乳もち」を考案した時と同じく、調理をする方の負担を最大限減らし、誰でも簡単に作れるようなレシピにしたいという思いから作成した。

また豆乳スープにした理由として、「道の駅」中条には「わんさか市」という中条地域で作られた農産物の直売所があり、そこの野菜を使いたいと思った。そしてその野菜を使うならスープが一番いいと思ったからである。なぜならスープは煮込めば煮込むほど野菜の味が染み出るため、豆乳をベースにジビエだけではなく、中条の野菜の味も楽しめる商品になるのではないかと思った。さらに、SDGsの考えから売れ残ってしまった野菜を捨てずにスープとして活用することで、食品ロスの低下に貢献し、野菜もたくさん入った環境にも身体にも優しい商品にできる可能性があると思った。

10月18日にSBC信越放送主催の「ろくちゃんの森」参加者にふるまいとして、「道の駅」中条の皆様による「ジビエ豆乳スープ」の提供が行われた。当日は、新型コロナウイルス対策のため松本大学の学生は不特定多数に飲食物をふるまうことができないため、準備や提供のお手伝いに携わることができなかった。しかし、私が考案したレシピを元に作られたスープの提供という昨年叶わなかった実績を得ることができた。さらに「ろくちゃんの森」で行われていた「ろくちゃんの森の学校2020秋」というイベントではジビエ肉のBBQを行い、「道の駅」中条のふるまいではジビエを使用した「ジビエ豆乳スープ」を提供することで、参加者にジビエ肉そのものとジビエ料理の2種類を味わってもらうことができた。



清水ゼミ4年生、太田このみさん考案「ジビエ豆乳スープ」試作(試作品は豚バラ使用)



「道の駅」中条に隣接する長野市ジビエ加工センターの「信州ジビエ」



「道の駅」中条の皆様による「ジビエ豆乳スープ」のふるまい(2020年10月18日)

(4)第4回「スタンプラリー」を非接触型で実施

2020年10月25日(日)、第4回「スタンプラリー」を「道の駅」中条で実施した。コロナ禍でも安全に配慮した非接触型のスタンプラリーを室谷心先生、室谷ゼミの学生と考案した。また外遊びしにくい子どもたちに向けて、「スタンプラリー」に運動要素を組み込むなど学生は「できることを、できるかたちで、できる範囲で」アイデアを出し続けた。

新型コロナウイルス感染症対応における「松本大学活動制限指針」に基づき、学生は不特定多数の方との接触ができないため、「道の駅」中条下内光雄施設長が長野市なかじょう保育園と長野市立中条小学校に呼びかけ、事前募集を行ってくださった。また国土交通省関東地方整備局長野国道事務所三浦淳

計画課長も応援に駆けつけてくださった。清水ゼミ3年生、石坂諒さんと中沢夏輝さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科3年 石坂 諒

4年連続、「道の駅」中条にて、第4回「スタンプラリー」を開催することができました。昨年と同様に私たち清水ゼミ3年生が4年生のサポートを受けながら、企画から実施・運営と主体的に取り組みました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響により異例の事態の中での開催となり、感染症対策を徹底するとともに、新たな解答方法を用いることで、ソーシャルディスタンスを意識した運営を行うことができました。

今回の「スタンプラリー」ですが、新たに3つの企画を加えて実施しました。1つ目に、新型コロナウイルス感染症対策として、PC端末のアプリを用いた「非接触型」解答方法の導入です。こちらは今回の「スタンプラリー」のカギとなる部分でもあり、子どもたちにPC端末のカメラに向かって手をかざし、3択問題の答えに応じて、正解の画像にかざされた際に「ピンポン」、他の2択は「ブブー」と音が鳴るようにセッティングし、口頭での解答による飛沫対策とともに、子どもに近づいてスタンプを押すといったことを撤廃しました。室谷先生はじめ室谷ゼミの学生のご協力のもと実現ができました。ありがとうございました。

2つ目に、「外でたくさん体を動かしてほしい」という提案のもと、スタンプラリー8つのチェックポイントの中に2つ、「的あて」等のスポーツ企画を盛り込みました。今回は「道の駅」中条のイベント広場やろくちゃんの森などを利用し、実際に山の中を駆け回り行う「スタンプラリー」の形式をとることで、いわゆる「おうち時間」で、外に出ることができなかったことを課題とし、楽しんで問題解決できるようにと考案しました。

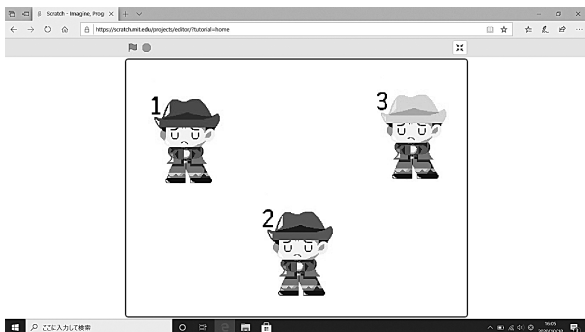
3つ目に、中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」をイラスト化しました。代々受け継がれてきた「ナカジョニー」ですが、中身の人が変わることでグッズ化やPRの場面において困難が生じることから、イラスト化による統一感は今後も使えるという意見からイラスト化された新しい「ナカジョニー」が誕生しました。これを活用し、導入した非接触型解答方法のPC内の画像、的あての的として用いるなどと、その汎用性を最大限活用して印象付けるこ

ともできました。

開催3日ほど前に急遽、「子どもたちの中に体調不良が出たことで、今回は参加者がいません」という緊急事態に見舞われ、「当日は動画を撮影して活動報告として残す」という内容に変更し実施することとなりました。そして10月25日当日、撮影を開始すると、事前告知を行っていた長野市立中条小学校と長野市なかじょう保育園の2組のご家族が足を運んでくださり、スタンプラリーが実施できました。問題に取り組んでいる姿、両手を挙げて喜ぶ姿に、不完全燃焼で終わりそうなところに燃料を入れてもらうような感覚で、なんだか救われた気分でした。



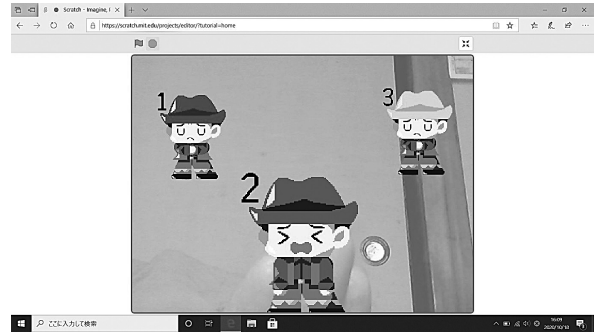
コロナ禍でも安全に配慮した非接触型のスタンプラリーを室谷心先生、室谷ゼミと考案



非接触型解答方法：PC画面 赤、青、黄色の帽子をかぶった「ナカジョニー」。正しいものに手をかざす。



正解すると、「ピンポン」と音とともに「ナカジョニー」が大きくなり両手を挙げて喜ぶ。



不正解だと、「ブブー」と音とともに「ナカジョニー」が大きくなり両手を下げて悲しむ。



的に命中し、両手を挙げて喜ぶスタンプラリー参加者の様子



88プロジェクトメンバー 集合写真（2020年10月25日）

総合経営学科3年 中沢 夏輝

2018年に誕生した中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」は毎年演じる人が変わります。2020年、三代目「ナカジョニー」を私、中沢が演じさせてもらい、第4回「スタンプラリー」に参加しました。また、「道の駅」中条のPR活動もかねて、「ナカジョニー」をイラスト化し、運用していくことになりました。

第4回「スタンプラリー」ではマスクの着用とアルコール消毒をし、参加者との距離感を考え、新型コロナウイルス対策を意識しての活動となりました。

コロナの影響で慣れない中での活動になりましたが、周りのスタッフの協力もあり、参加して下さった2組のご家族には楽しんでもらうことができました。参加者の喜ぶ姿、楽しむ姿を見て、素直にやってよかったと思うことができました。今回の活動で、会場の皆さんの記憶に「ナカジョニー」が少しでも残ってくれていると嬉しく思います。「ナカジョニー」というキャラクターを地域の皆様に認知してもらうか、が今後の「ナカジョニー」としての課題になると思います。今回の経験を存分に活かして地域活性化に貢献できるよう努めていきたいです。

3年生主体で、初めての活動ということや、会議の半数以上がオンライン上の会議で、思うようにい



清水ゼミ3年生、中沢夏輝さん 三代目「ナカジョニー」

かないことが多々あり、正直大変でしたが、プロジェクトの進行の難しさや、計画準備の重要性、柔軟性の大切さなど多くのことを学べる良い機会でした。プロジェクト進行に大きな支援をしていただきました「道の駅」中条の皆様には、感謝しきれません。

子どもたちをさらに楽しませる工夫をするとともに、この経験を活かし、「道の駅」中条のさらなる発展や社会への貢献ができるよう、今後も活動し続けていきたいと思っています。協力していただいた多くの皆様ありがとうございました。



清水ゼミ3年生、百瀬愛さん制作 第4回「スタンプラリー」ポスター

(5)中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」のイラスト化

2018年、清水ゼミ3年生であった内田敦也さんが考案した中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」は内田さん自身が演じ、長野市中条地域最大イベント「むしくらまつり」に登場した。「ご当地キャラ生身で演じます」として、2018年10月31日『信濃毎日新聞』1面・25面に掲載され、AR(拡張現実)動画制作や〇×クイズでイベントを盛り上げた。2019年にはCD「ナカジョニーのうた」を制作した。

二代目として「ナカジョニー」を引き継いだのが

宮澤俊也さんと、ゼミ生とともにDVD「ナカジョニー体操」制作や松本大学WEBキャンパスガイド動画に出演し、88プロジェクト活動報告を行った。

2020年、三代目として「ナカジョニー」を引き継いだのは中沢夏輝さんで第4回「スタンプラリー」に登場した。新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、学生は「ナカジョニー」のイラスト化を考え出した。清水ゼミ3年生、赤羽陽南乃さんに原稿をまとめてもらった。

総合経営学科 3年 赤羽陽南乃

2020年度の88プロジェクトの取り組みの一つとして、中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」のイラスト化に取り組みました。

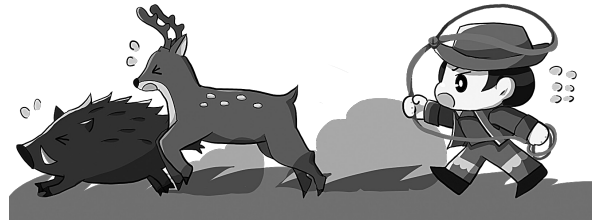
「ナカジョニー」は2018年度に清水ゼミの先輩である内田敦也さんによって考案されたキャラクターです。キャラクターを利用することにより、親しみやすさが湧きお客さんの記憶に残りやすい。存在感があるのでキャラクターを介した情報発信が容易になる等の理由から考案されました。誕生してからこれまで、考案者であり初代「ナカジョニー」の内田敦也さん、二代目「ナカジョニー」の宮澤俊也さんと、生身の人が衣装を着て演じるという形で活用されてきました。生身の人が衣装を着て演じるという形態は、ゆるキャラ等と比較して会話がしやすいため、お客様とのコミュニケーションがとりやすいという利点があります。しかしそれでは生身で会う機会のある時以外での活用が難しいと思い、生身のキャラクターはそのままに、イラスト化もしたらどうかと考えたのがきっかけです。同ゼミ所属3年の百瀬愛さんに協力してもらい、共同で進めました。

「道の駅」中条ではジビエ料理を売り出しているの、その宣伝にも使って貰えるようなデザインがいいだろうということで、いのししや鹿と絡ませたデザインを考えました。イラスト化した「ナカジョニー」は「道の駅」中条の方にも大変喜んでいただき、嬉しかったです。

そして、「ナカジョニー」の認知度をもっと上げるために、ステッカーを制作し、88プロジェクトで行った「スタンプラリー」の参加者の方に配布し、第2回「スタンプラリー」や第4回「紡ぐ川柳コンテスト」のポスター、賞状のデザイン等にも「ナカジョニー」を入れました。

このように様々なところに「ナカジョニー」を入れ込むことができたので、コロナ禍でも「ナカジョ

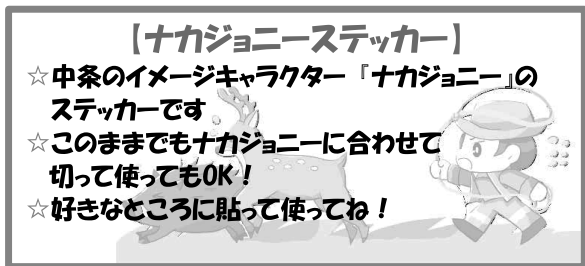
ニー」が様々な人の目に止まる機会を作れたのではないかと思います。「ナカジョニー」の知名度向上によって、「道の駅」中条の知名度向上にも貢献できていたら幸いです。活動に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



いのししと鹿を追いかける「ナカジョニー」(赤羽陽南乃さんと百瀬愛さんデザイン)



いのししに乗った「ナカジョニー」&鹿に乗った「ナカジョニー」(百瀬愛さんイラスト制作)



清水ゼミ3年生、赤羽陽南乃さんと百瀬愛さんによる「ナカジョニーステッカー」制作

(6)第2回「紡ぐ川柳コンテスト～虫倉山にこだまする～」を企画・実施

2019年度に続き、第2回「紡ぐ川柳コンテスト～虫倉山にこだまする～」を企画・実施することができた。清水ゼミ3年生、宮崎凜さんに原稿をまとももらった。

総合経営学科 3年 宮崎 凜

今年の「88プロジェクト」では、昨年に引き続き「川柳コンテスト」を実施しました。タイトルは第2回「紡ぐ川柳コンテスト～虫倉山にこだまする～」でした。募集したテーマは「中条の魅力」です。それに伴い清水ゼミ3年生は川柳募集のためのポスターを考案し、百瀬愛さんが制作しました。今年オリジナルキャラクター「ナカジョニー」をメインとしたポスターであり、それを「道の駅」中条に貼らせていただき、「道の駅」に訪れたお客様から川柳を募集しました。そして、多くのお客様から、中条に関する川柳を応募していただきました。たくさんのお客様の中から『道の駅」中条 駅長賞』『道の駅」中条 スタッフ賞』『松本大学 総合経営学科長賞』『ナカジョニー賞』の4つの賞を設け、選考し、表彰しました。

- ・「道の駅」中条 駅長賞 河原純一様
『山波に 負けぬ人波 道の駅』
- ・「道の駅」中条 スタッフ賞 スミス陽子様
『きのこ見て 名前を言える わが息子』
- ・松本大学 総合経営学科長賞 中山博雅様
『古里の 虫倉山に 会いに来た』
- ・ナカジョニー賞 酒井結芽様
『でんせつの やまんばいるか わからない』



第2回「紡ぐ川柳コンテスト」多くの方に応募いただきました。



清水ゼミ3年生、百瀬愛さん制作 第2回「紡ぐ川柳コンテスト」ポスター



「道の駅」中条での第2回「紡ぐ川柳コンテスト」展示の様子

コロナ禍という状況の中でしたが、たくさんの川柳を応募していただきました。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。

(7) 卒業論文発表

松本大学総合経営学部では卒業論文発表会を開催していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。そのため清水ゼミ4年生は清水ゼミ3年生に向けて、卒業論文を発表した。88プロジェクトで得た学びを元に、7名の学生が4本の卒業論文を完成することができた。



卒業論文発表を行う花岡拓さん・宮澤俊也さん(2021年1月18日)

- ・太田このみさん：『持続可能な「道の駅」中条の展望』
- ・日下佑也さん・竹村歩夢さん・多田優大さん：『イベントを通じた地域活性化』
- ・花岡拓さん・宮澤俊也さん：『地域活性化におけるキャラクターの運用と認知度向上の考察』
- ・平丸獎真さん：『地方創生を支える破壊的イノベーション』

(8) むすびにかえて

「道の駅」は1993(平成5)年に創設された制度で、市町村等からの申請に基づき、国土交通省道路局で登録を行っている。2021(令和3)年6月11日、「道の駅」の第55回登録では新たに6駅の登録が発表され、全国で1,193駅となる。長野県は52駅登録されており、北海道、岐阜県に次いで全国第3位の「道の駅」登録数である。

1995(平成7)年に登録された「道の駅」中条は長野市西部の山間部、主要地方道長野大町線沿道に立地する。松本大学と「道の駅」中条及び長野国道事務所は長野県初の連携企画型の実習を2015年度より開始した。連携企画の実施にあたり、「道の駅」中条の運営を担う指定管理者であるアクティオ株式会社と本学は事業連携・推進に関する協定を締結し、国土交通省の推進する「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参画し、地域貢献と学生教育を進めてきた。

長野市中条(旧中条村)地域の活性化に向けて、子育ての神様として慕われる山姥伝説を地域の独自性や魅力を生み出す源泉として捉え、「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げた。「88プロジェクト」は課題解決型学習(Problem Based Learning)であり、複数のプロジェクトを同時に立案し、運営するプロジェクト型学習(Project Based Learning)である。

6年目となった2020年度も協定に基づき、「道の駅」中条を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与することを目的として活動を続けてきた。2019(令和元)年台風第19号の影響、また2020(令和2)年新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、長野市中条地域最大のイベントである「むしくらまつり」が連続して中止となった。また国土交通省による「道の駅」学生コンテストも中止となった。

大変厳しい状況であったが、「道の駅」中条の下内光雄施設長はじめ「道の駅」中条の皆様の協力のもと、学生は「できることを、できるかたちで、できる範囲で」活動を続け、成果をあげることができた。

「道の駅」中条に隣接する長野市ジビエ加工センターのジビエを使った商品開発「ジビエ豆乳スープ」、第4回「スタンプラリー」を非接触型で企画・運営、第2回「川柳コンテスト」を企画・実施、2018年に学生が考案した中条のイメージキャラクター「ナカジョニー」のイラスト化とポスターおよびステッカーの制作、三代目「ナカジョニー」が決定した。4年生は88プロジェクトの活動を元に卒業論文も完成させた。また2020年春には国土交通省より「奨励賞」が授与された。

ここで、図1「88プロジェクト」におけるアイデアの源泉から企画案・実施の流れを示す。

図1 「88プロジェクト」における
アイデアの源泉から企画案・実施の流れ

★アイデアの源泉★

「こんなことをしたい！」という清水ゼミ生の1人が考案した直感や妄想からスタート



1人のワクワクや感動を清水ゼミ生みんなまで共有し、ビジョン(VISION)を作成



「道の駅」中条でプレゼンテーションを行い、企画案を決定



- ・やること・やらないこと、できること・できないことを考える
- ・先輩の活動を学び、自分は何ができるか考える
- ・実施に向けてPDCA(PLAN-DO-CHECK-ACTION)サイクルを回す
- ・マーケティングの理論と実践の融合をめざす

図1に基づいて、学生は創造(想像)の翼を広げ、自分のアイデアを実現するため、試行錯誤を繰り返す。「88プロジェクト」の大きなポイントは「道の駅」中条でのプレゼンテーションの部分であった。アイデアのスクリーニングが行われ、実施されるアイデアと棄却されるアイデアが選別される。実施決定後、実施過程で数多くの難問にぶつかり、解決を迫られる。アイデアの棄却やトライアル・アンド・エラーを繰り返すことで学生の思考力や経験値が高まってくる。

なぜそのアイデアは却下されたのか、なぜそのアイデアは採用されたのか。アクティオ株式会社の植山貴司東日本営業部長や「道の駅」中条の下内光雄

施設長のコメントはまさに総合経営学部の学生にとって、経営的な視点を直接学ぶ機会となった。松本大学の教育手法であるアウトキャンパス・スタディは地域と連携した実践型教育であるが、「88プロジェクト」は「道の駅」中条という地域社会の現場で学生が主体的に学ぶ、教育プログラムであった。

通常の業務に加え、学生の突飛なアイデアに驚き、あきれ、戸惑われたことも多々あったと思われる。アイデアが大きく花開く瞬間を学生に経験させつつ、アウトキャンパス・スタディやイベントでの対応、中条地域の住民の方々との対応と常に多角的・多面的な支援であった。「子育ての神：山姥(やまんば)伝説の里」中条をコンセプトにしたさまざまな企画の実現や地域特産物である西山大豆やジビエを使った商品開発、西山大豆の種まき、収穫、脱穀といった生産、加工、販売までの6次産業化への取り組みの経験は、学生に新しいことにチャレンジする楽しさを背中であげ、示してくださった。

2021年3月31日、アクティオ株式会社による「道の駅」中条の指定管理は終了したが、最後まで学生の学びへの支援を続けてくださった。アクティオ株式会社の植山貴司東日本営業部長、「道の駅」中条の下内光雄施設長、小林彩子副施設長、高橋さつき副施設長はじめ「道の駅」中条の皆様、中条地区の皆様には感謝申し上げます。また国土交通省の皆様には連携企画型の実習の構築、発表会、ポスターの制作とともに「道の駅」学生コンテスト「奨励賞」の授与と、学生の活動への後押しを続けてくださったこと、感謝申し上げます。

最後に、学生のフォローや支援をしてくださった総合経営学科の室谷心先生、矢崎久先生、小林俊一先生、副学長としてそして総合経営学部長として「88プロジェクト」を見守り続けてくださった増尾均先生、ありがとうございました。御礼まで申し上げます。

松本大学総合経営学部では地域社会での実践的な学びを重視し、「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる」をキーワードに理論と実践の融合を目指した教育活動を推進している。まず、種を撒いてみる。水をあげすぎると根腐れし、水をあげないと枯れてしまう。種は芽を出すとは限らない。大雨や台風にも遭遇することもある。コロナ禍でも仲間とともに知恵を出し合い、時間をかけて育て収穫を楽しむ。「88プロジェクト」での学びを今後どのように展開するか、学生は創造(想像)の翼を広げている。

資料1：「88(やまんば)プロジェクト」活動報告

○2015年度(1年目)

- ・松本大学×「道の駅」中条×国土交通省連携企画「88(やまんば)プロジェクト」発足
- ・「88プロジェクト」のロゴ制作、スタッフジャンパー制作
- ・食品開発(西山大豆おからドッグ)の開発・販売
- ・商品開発(やまんばの里キーホルダー)の開発・販売
- ・イベント(Kidsダンサーとのダンスイベント)の企画・実施
- ・イベント(きのこ千人鍋)の調理・ふるまい
- ・平成27年度道の駅と大学連携成果発表交流会に参加・発表
- ・平成27年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取組のご紹介 pp.81-82.
https://www.michi-no-eki.jp/pdf/daigakurenkei_1113.pdf
- ・教育事業報告「長野県初松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト－」『松本大学地域総合研究』(2016.7.31) pp.163-171.

○2016年度(2年目)

- ・笹おやきのパッケージ制作・販売
- ・イベント(Kidsダンサーとのダンスイベント)の企画・実施
- ・「道の駅」中条での東北復興支援として塩釜港直送おでんの販売
- ・西山大豆の種まきや収穫を体験
- ・平成28年度道の駅と大学連携成果発表交流会に参加・発表
- ・平成28年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みのご紹介 pp.79-80.
<https://www.michi-no-eki.jp/pdf/cii3tj9rx42.pdf>
- ・受託事業・教育事業報告「松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト2016－」『松本大学地域総合研究』(2017.7.31) pp.209-219.

○2017年度(3年目)

- ・「88プロジェクトファーム」での6次産業化の検討
- ・食品開発(西山大豆おからドッグ)の改良・販売
- ・食品開発(西山大豆豆乳スープ)の開発・ふるまい
- ・イベント(第1回「スタンプラリー」)の企画・運営
- ・平成29年度道の駅と大学連携成果発表交流会に参加・発表
- ・平成29年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みのご紹介 pp.87-88.
<https://www.michi-no-eki.jp/pdf/2018daigakurenketsu.pdf>
- ・受託事業・教育事業報告「松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト2017－」『松本大学地域総合研究』(2018.7.31) pp.227-237.

○2018年度(4年目)

- ・中条イメージキャラクター「ナカジョニー」の考案・実演
- ・AR(拡張現実)動画制作
- ・「88プロジェクトファーム」での6次産業化の検討
- ・食品開発(豆乳仕立ての笹クレープ)開発・販売
- ・イベント(第2回「スタンプラリー」)の企画・運営
- ・イベント(落ち葉アートなど自然の遊び)の企画・運営
- ・平成30年度道の駅と大学連携成果発表交流会に参加・発表
- ・平成30年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みのご紹介 pp.54-55.
<https://www.michi-no-eki.jp/pdf/2019daigakurenketsu.pdf>
- ・受託事業・教育事業報告「松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト2018－」『松本大学地域総合研究』(2019.7.31) pp.183-198.

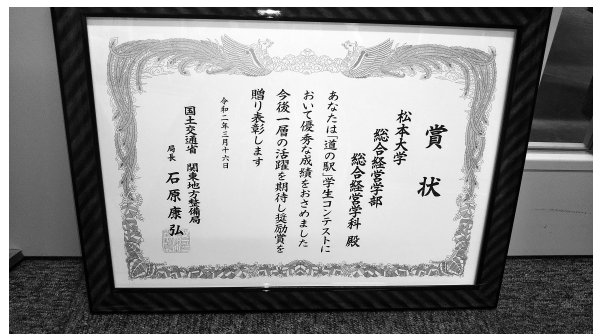
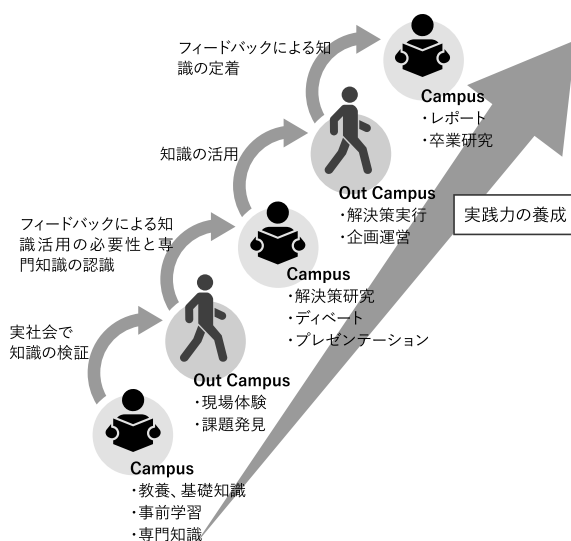
○2019年度(5年目)

- ・「ナカジョニーのうた」CD制作と二代目「ナカジョニー」の決定
- ・「ナカジョニー体操」考案・DVD制作
- ・「88プロジェクトファーム」での6次産業化の推進
- ・食品開発(笹豆乳もち)の開発
- ・イベント(第3回「スタンプラリー」)の企画・運営
- ・イベント(第1回「川柳コンテスト」)の企画・実施
- ・長野市立中条小学校での「ナカジョニー体操」および「川柳コンテスト」表彰式実施
- ・第44回「全国経営学部長会議」での発表
- ・松本大学WEBキャンパスガイダンス動画での発表
<https://www.matsumoto-u.ac.jp/video/video28772.php>
- ・令和元年度「道の駅」と大学の連携・交流に関する取り組みのご紹介pp.47-48.
<https://www.michi-no-eki.jp/pdf/20201111daigakurenketsu.pdf>
- ・受託事業・教育事業報告「松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト2019－」『松本大学地域総合研究』(2020.7.31) pp.129-143.
- ・国土交通省「道の駅」学生コンテスト「奨励賞」受賞

○2020年度(6年目)

- ・商品開発(ジビエ豆乳スープ)開発とふるまい
- ・中条イメージキャラクター「ナカジョニー」のイラスト化
- ・イラスト化された「ナカジョニー」のステッカー制作とポスター制作
- ・三代目「ナカジョニー」の決定
- ・イベント(第4回「スタンプラリー」)非接触型で企画・運営
- ・イベント(第2回「川柳コンテスト」)の企画・実施
- ・受託事業・教育事業報告「松本大学×「道の駅」中条×国土交通省 連携企画 松本大学総合経営学部による「道の駅」中条を拠点とした地域活性化－88(やまんば)プロジェクト2020－」『松本大学地域総合研究』(2021.7.31) pp.129-141.

資料2：松本大学におけるアウトキャンパス・スタディの位置づけ



国土交通省より「道の駅」学生コンテスト「奨励賞」を受賞

出所：松本大学HP

<https://www.matsumoto-u.ac.jp/research/outcampus/>

2020年ポスター



私たちは…

地域特産物を活かした商品開発・キャラクター開発・イベント企画を通して、長野市中条の地域活性化に取り組んでいます!

「ナカジョニー」のイラスト化

ジビエを使った商品開発



道の駅「中条」のPRとしてイメージキャラクター「ナカジョニー」をイラスト化!



道の駅「中条」でイベント参加者にふるまいました!

ジビエ豆乳スープの試作

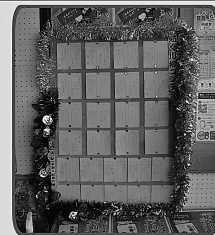


第4回スタンプラリーの企画・実施

第2回「柳」コンテストの企画・実施



コロナ禍でも安全に配慮した非接触型のスタンプラリー



多くの方に応募いただきました!



国土交通省 関東地方整備局

国土交通省では、全国各地で、「道の駅」と大学との連携を実施しています。この取り組みは、地域の魅力の集まる「道の駅」と大学生の交流により新たな価値の創造を図り、観光地域づくりなどを担う将来の人生育や地方創生にも寄与が期待されているところです。